

2020 年度夏季特別展「カモシカと犬山の野生動物」 開催報告書

日本モンキーセンターは霊長類を中心とした博物館・動物園ですが、地域の自然史博物館としての役割も期待されています。犬山市が位置する尾張北部地域は木曾川に育まれた里山環境や愛知県北端の丘陵地帯など豊かで多様な自然環境に恵まれ、多くの野生動物がくらししています。その一方で近年、シカ・カモシカの分布拡大やイノシシによる農業被害増加などの変化も見られるようになりました。

この特別展では最近犬山で目撃されるようになったカモシカをはじめ、中大型哺乳類を中心とした野生動物の姿や生息状況を紹介します。また市民のみなさんにも目撃情報をお寄せいただき、尾張北部地域の野生動物に関する情報が集う場としても役立てます。



期間：2020年6月20日(土)～10月25日(日)

場所：ビジターセンター特別展示室

主催：公益財団法人日本モンキーセンター

共催：京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院

後援：公益財団法人日本自然保護協会、犬山市、犬山市教育委員会

協力：岐阜県博物館、名古屋市東山動物園、一般社団法人犬山猟友会

会期中の入園者数：25,051名

内訳：

月	6月(20日以降)	7月	8月	9月	10月(25日まで)
入園者数	2,618名	2,951名	3,517名	7,558名	8,407名

会期中に集まった野生動物目撃情報：92件

会期中に集まった犬山市内のカモシカ目撃情報：4件

関連イベント：講演会「愛知のカモシカ、犬山のカモシカ」

本特別展の関連イベントとして、元名古屋大学で愛知県のカモシカを研究してこられた高野明香氏と、犬山市で野生動物管理に携わる丸山泰裕氏をお招きし、講演会を開催した。

日程：2020年8月10日(月・山の日) 13:00～14:30

場所：ビジターセンター ホール

参加費：無料

参加者数：24名



## 犬山の野生動物 変化紹介

### モンキーセンターで展示 10月25日まで



犬山・犬山の日本モンキーセンターは境内の特設展示場で「カモシカと犬山の野生動物」展を開催している。犬山でも目撃され始めたニホンカモシカをはじめ、野生動物の出没状況の急激な変化を紹介している。十月二十五日まで。(二田村愛和)

約十五種の哺乳類をとり上げ、「犬山市史」史料編(二)を基に一九〇年の動物分類と現在を比較し、急増したのはフシシ、ヌートリア、アマライクマ、ハクシシ、他に「犬山市史」の「カモシカ」を基に「犬山の野生動物」を解説している。展示の主眼であるニホンカモシカは五年前の県の記録では徳島、香川県より西にいなかったが、二年ほど前から犬山にも目撃され、センター近くの山を歩き回っている。メスで発見。一昨年の調査にして会場で放映している。一時は「この市史が書かれた当時は一頭も見ることができなかった」と言われたフシシは、今は広く市内に分布し、野生動物を食いつぶすのを懸念している。

センター学術の赤島博志(カモシカ)は「カモシカは、野生動物の目撃が急増している。中でもカモシカについては変わり行く動物は犬山だといえる。四種の現象が犬山以外の各地でもあるはず」と話していた。

八月十日午後一時、古典学博士や犬山親友会(左)による講演会「鹿沼のカモシカ 犬山のカモシカ」を開催。目撃情報も集まっている。熊野火・水権の講演センター・0508(但)20207

## ニホンカモシカ 生態知って

### 日本モンキーセンターで講演会



ニホンカモシカの生態などを解説する高野さん(左)と犬山親友会の丸山泰裕さん(右)が講師を務めた。高野さんは、名前に「シカ」とあるがヤギの仲間。特別天然記念物に指定されていると説明。保護対象である一方、近年では生息数が増えて個体数調整

犬山市で発見が相次いでいるニホンカモシカをテーマにした講演会「愛知のカモシカ 犬山のカモシカ」が十日、同市犬山の日本モンキーセンターであり、二十四人が耳を傾けた。

農学博士でニホンカモシカの専門家の高野明香さん(左)と犬山親友会の丸山泰裕さん(右)が講師を務めた。高野さんは、名前に「シカ」とあるがヤギの仲間。特別天然記念物に指定されていると説明。保護対象である一方、近年では生息数が増えて個体数調整

のために捕獲されているとして、「捕らえたら年齢や妊娠率などを調べて今後の捕獲数を決める参考にしている」と話した。

続いて、丸山会長が動画や画像で市内に現れたニホンカモシカの姿を伝えた。数年間までは市内にいなかったが、昨年は六頭が見つかったと話し、「本来、山岳に生息する動物が里山にまで来ている」と指摘した。

センターでは特別展「カモシカと犬山の野生動物」を十月二十五日まで開催している。(水谷元海)

特別展のようす



特別展会場全体。新型コロナウイルス感染防止のため、床面に一方通行の順路を示した。



導入では、変わりつつある犬山の自然環境に目を向けてもらうため、時代の異なる航空写真を並べた。



中型哺乳類を中心とした展示。岐阜県博物館より借用した剥製標本を、足型や頭骨標本などとともにケース内に展示。壁面には本特別展のために制作した毛皮標本も展示した。



ヌートリア、アライグマ、ハクビシン、タヌキ、アナグマ、ニホンテン、ニホンイタチ、アカネズミは剥製標本などを用いて、アカギツネやニホンノウサギなどは頭骨標本などを用いて紹介した。



イノシシとニホンカモシカの展示。奥上部に剥製標本を、手前に食痕やフンなどの資料や写真を展示した。



カモシカに関する資料は東山動物園よりご提供いただき、飼育個体の撮影にもご協力いただいた。背面のモニターでは、継鹿尾山に設置したセンサーカメラに写ったカモシカの映像を展示した。



ニホンカモシカの分布の変化と、犬山市内での目撃情報マップ。会期中にも目撃情報が寄せられたため、マップは次第に充実していった。



日本自然保護協会にご協力いただき、モニタリングサイト 1000 のポスターを展示し、日本モンキーセンター哺乳類調査グループの活動紹介もおこなった。



犬山では野生絶滅したウシモツゴの保存について、水槽での展示も交えて紹介した。



最後のコーナーでは参加型の展示として、センサーカメラの動画を用いたクイズをおこなった。接触感染対策のため答えは QR コードでも提示した。



本特別展にあたり、職員を対象に、園内で見られた野生動物の調査をおこなった。2008 年におこなった同調査と比較しながら、目撃時の体験談も交えて紹介した。



野生動物の目撃情報掲示板。会期中に 92 件の情報が集まった。

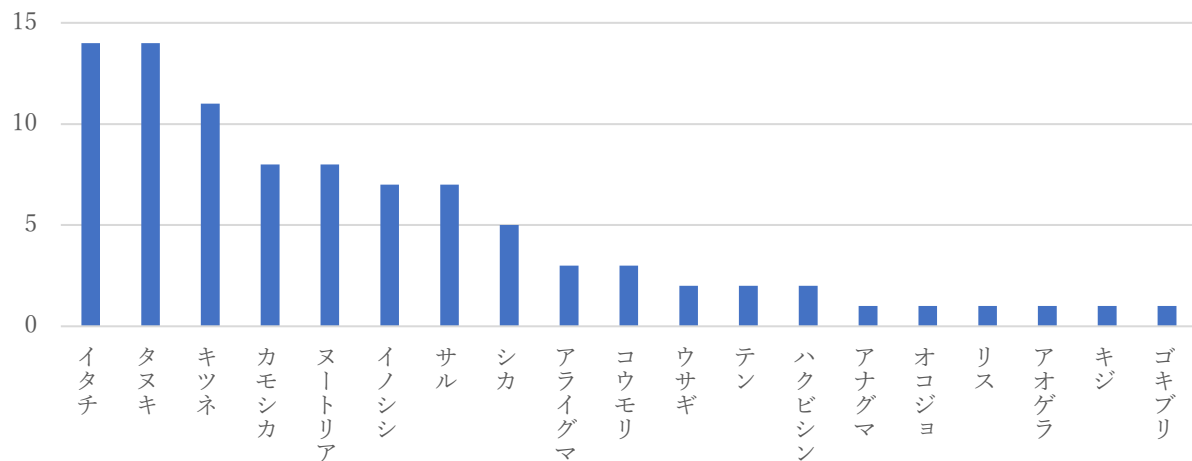
「目撃情報 大募集！」に寄せられた情報

※特別展での交流が目的であり、調査を目的とした情報収集ではない

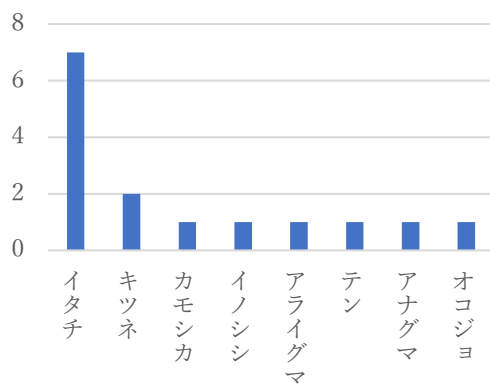
※「野生動物目撃情報」としたため、集まった情報は哺乳類とは限らない

※オコジョはイタチなどの見間違えだと思われる

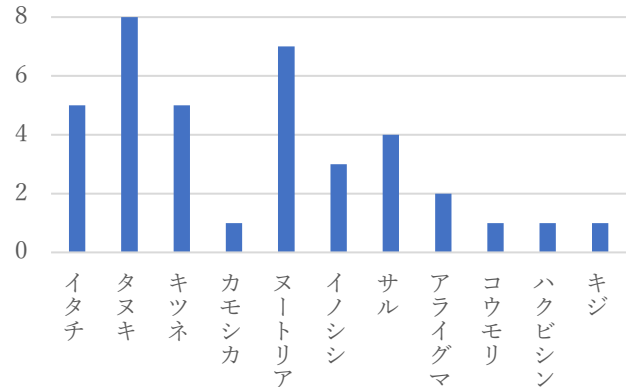
### 全体（92件）



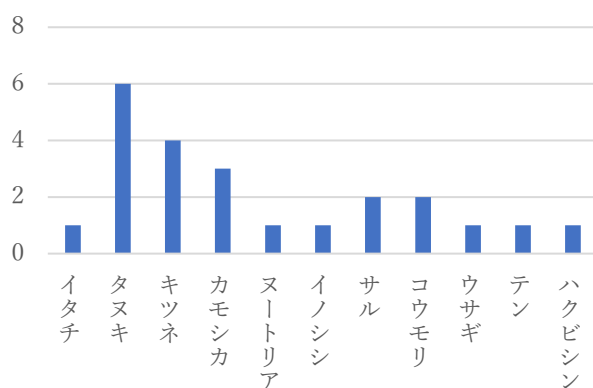
### 犬山市内（15件）



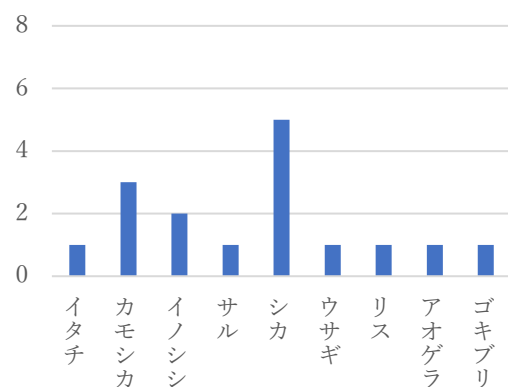
### 犬山市を除く愛知県内（38件）



### 岐阜県内（23件）



### その他（16件）

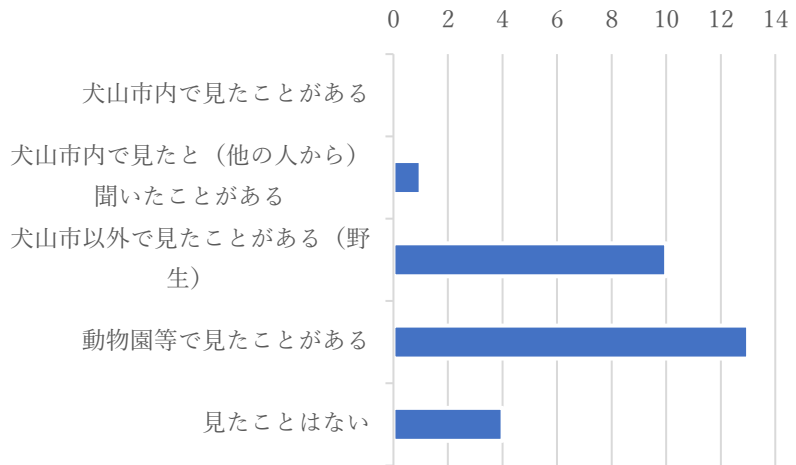


会場アンケートの結果

最後のコーナーでアンケートを実施した。用紙と回収ボックスを設置し任意でご記入いただく形だったこと、特に謝礼は用意しなかったこともあり、回収数は 23 件にとどまった。以下に結果の一部を示す。

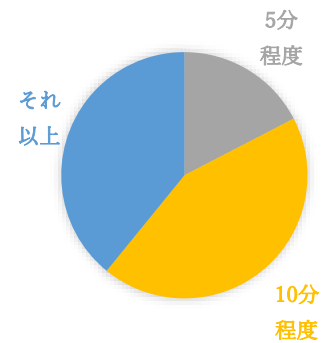
■今までニホンカモシカを見たこと・聞いたことがありますか？（複数回答可）

⇒アンケート回答者は、本特別展のテーマに関心が高い方が多いと推測されるが、野生での目撃経験は半分以上にとどまった。



■特別展にはどれくらいのお時間、滞在されましたか？

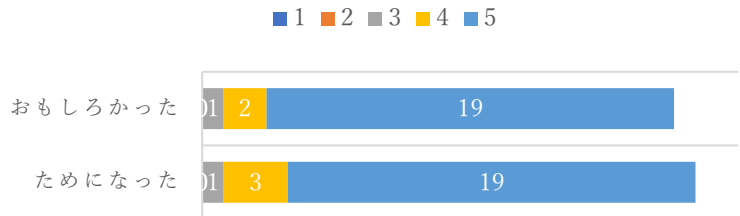
⇒「10分程度」や「それ以上」の回答が多かった。「1分以下」「3分程度」の回答はなかった。



■特別展の内容についてお伺いします。

特別展は、おもしろかったですか？  
特別展は、ためになりましたか？

⇒5段階評価でたずねたところ、8割以上の方が「5」と回答した。



■特別展で興味をひかれたのはどの展示ですか？

⇒実物の標本を多用した展示に最も興味が集まった。

